

21. 種痘後脳炎の一症例

篠本 直, 牧野忠夫 (社保船橋中央)

生後 5 カ月の男児に, 初回種痘接種後 9 日目より脳炎症状を認め, 髄液よりウイルスの検出はできなかったが, 中和抗体 CF 価, HI 価の上昇を認めた。ステロイドホルモン, γ -グロブリン, 抗生剤またはビタミン B₁ 注射およびマッサージ等をおこない, 一命をとりとめたが上肢の硬直性麻痺 および下肢の弛緩性麻痺を残した。また, 脳波検査にて, dysrhythmia を併なった γ -Frontal sharp waves を認めた。以上のごとき種痘後脳炎の一症例を報告した。

22. 栃木県上都賀地区における無菌性髄膜炎, 特にその不全型といわれる「夏カゼ」について

布川武男 (上都賀病院小児科)

過去 3 年間にわたり, 日光, 今市, 鹿沼地区に発生した無菌性髄膜炎の流行例について報告した。発生時期, 主要症状, 髄液の所見等については, 従来報告せるものとはほぼ一致するものであった。これら流行例のうち, 昭和 39 年, 今市地区の一社宅内に発生した例では, 患児発生の周辺に, その不全型とみられる感冒様症状を示す患児の発生がみられた。また, 昭和 41 年には, 結婚式の集りを媒介として, 感冒様症状を呈せる 1 例より, 3~8 日の潜伏期をもって, 次々に, ある者は感冒様症状を示し, ある者は無菌性髄膜炎に罹患した。このうち 1 名より, ECHO 6 型を検出した。なお, 報告した症例のうち, 麻痺等の後遺症を示したものは, 1 例もなかった。治療は, 脳脊髄液排除, 抗生剤投与, その他対象療法を行なった。

追 加 中島春美 (佼成)

昭和 34 年東京中野区に流行した無菌性髄膜炎 14 例に対し ECHO 6 型と決定した臨床症状を報告し, 将来, 本症が多くなるであろうことを予告した。その後年ごとに各地で発表が多くなり, ECHO 4 型も報告されるようになった。

追 加 岡田宏一 (新潟県新井市頸南病院小児科)

昭和 39 年に新潟県新井市で約 240 例の ECHO 4 型による無菌性髄膜炎の大流行を見た。この際汗疹様~麻疹様発疹を伴うものが 6~7% に見られたので, 夏かぜの場合, これらの発疹をみた時には注意を要したい。

23. 幼児の帯状疱疹の 1 例およびそれに続発したと思われる水痘症の院内感染例

石井誠一 (東京厚生年金)

成人, 特に高年令にはポピュラーな帯状疱疹も“いわ

ゆる水痘症年令”と言われる 5 才以下の乳幼児に見ることは少ない。

われわれは 3 才 4 月の男児例を経験した。すなわち三叉神経第 1 枝に沿って発症し, Herpes Ophthalmicus を併発した。小児の本症は疼痛は比較的軽症で Postherpetic neuralgia は少ないと言われているが, 患者の疼痛はむしろ激痛であった。

なお retrospective に考察して, 明らかに本症に続発したと思われる水痘症の 2 例を観察し併せて検討した。

質 問 本宮 建 (千大小児科)

同一あるいはきわめて近縁関係にあるウイルスが, 成人では Herpes zoster を起こし, 幼児では水痘を起こしてくるメカニズムについて御教示下さい。

解 答 石井誠一 (東京厚生年金)

私自身には御質問に対する明確な考えは持っておりませんが, 文献によると V の Virus を潜在的な形で内部 (神経節附近) に保有している者に, ある原因で免疫の低下が起こった場合に Zoster を生ずるとの説があります。

ただし Zoster の Virus と Varicella の Virus は非常に近縁ではあるが, 最終的に同一のものかどうかは未定のようなのです。

24. トキソプラズマ症と思われる 1 治験例

中島春美, 相沢 昭, ○阿久津美代子

(佼成病院)

痙攣を主訴としたトキソプラズマ症を思わせる生後 16 日男児の 1 例を報告します。

家族歴, 既往歴, 特に異常ないが, 母親が妊娠初期に迷い犬を飼育した既往があり。その他, 妊娠中, また分娩異常を認めず。入院時, 痙攣と生理的範囲の黄疸, 大泉門膨隆, 肝腫大, 項部, 四肢硬直あり, 諸種の検査をしたところ髄液圧高く, キサントクロミーあり, トキソプラズマ赤血球凝集反応, 患児 1024 倍, 母親 8064 倍と強陽性, 気脳法にて軽度内脳水腫あり, 次第に貧血出現, 症状が増悪, 視神経萎縮も出現したため, Daropirin, sulfadiazine, および spyracyclin を併用したところ, 上記症状は改善され, 抗体価も 2048 倍まで上昇したが 500 倍にまで低下。目下外来にて経過観察中。薬剤がある程度効果あったと思われる。

25. 先天性トキソプラズマ症の 1 乳児例

青山恭二・福本泰彦 (成田日赤)

昭和 41 年 6 月 12 日, 初診時 7 カ月の女児で 40°C 前後の弛張熱と全身性間代性痙攣を主訴として入院。入院